

# 湘南慶育病院

本多 真里那(リハビリテーション部 / 理学療法士)

**功 績** 回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者における歩行障害(反張膝)に対して、チューブを併用した免荷式トレッドミル練習(tube-assisted Body Weight Support Treadmil Training: tube-assisted BWSTT)と機能的電気刺激療法(Functional Electrical Stimulation: FES)を組み合わせた新規性のある複合的な治療戦略を展開した。その内容を当院理学療法士である山本(科長)、当院作業療法士である丸山(部長)の指導を受けて、第42回神奈川県理学療法士学会で発表したところ、優秀賞を受賞し、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献した功績。

**推薦者氏名** 山本 直弥(リハビリテーション部 科長)、丸山 祥(リハビリテーション部 部長)

**推薦理由** 当院リハビリテーション部理学療法士の本多真里那は、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者における歩行障害(反張膝)に対して、最新のエビデンスをもとに新たな複合療法を用いて実践し、従来の介入では改善に難渋する病態に対して有効な成果を収めることができました。この業績は、単なる実践報告にとどまらず、当院が目指す「質の高いリハビリテーション」を体現する象徴的な事例であり、後進の模範となる極めて意義深い価値を有しています。よって、理事長賞に相応しい人物として推薦いたします。

## 内 容

当院リハビリテーション部の本多真里那は、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者における歩行障害(反張膝)に対して、最新のエビデンスに基づき、チューブを併用した免荷式トレッドミル練習(tube-assisted BWSTT)と機能的電気刺激療法(FES)を組み合わせた新規性のある複合的な治療戦略を展開しました。この併用療法により、歩行時の筋活動が適正化し、反張膝の改善と歩行速度の向上、歩行自立度の向上が示されました。

脳卒中者の歩行における反張膝に対して従来のリハビリテーションでは、短下肢装具を用いる介入が一般的であるものの、治療に難渋することが多いとされています。本報告では、短下肢装具に加えて、物理的に下腿を前方から引くことで正常な固有感覚を入力し中枢神経系の再構築を促す効果のあるtube-assisted BWSTTと、歩行時の筋活動を適正に促す電気刺激療法であるFESを組み合わせることで、反張膝の改善を実現しました。これにより、患者さんの目標としていた歩行の自立を達成することができたため、学術大会において報告しました。

実践の成果について、2026年2月1日に開催された第42回神奈川県理学療法士学会で、当院理学療法士である理学療法科科長山本、リハビリテーション部部長丸山とともに演題を作成し、発表したところ優秀賞を受賞し、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献した。